

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

非水百化譜

第十九輯

大正
11.6.10
丙午

始



たいさんぼく(大山人)

學名 Magnolia grandiflora

異名 はくれんぼく、たいさんもくれん

漢名 泰山木

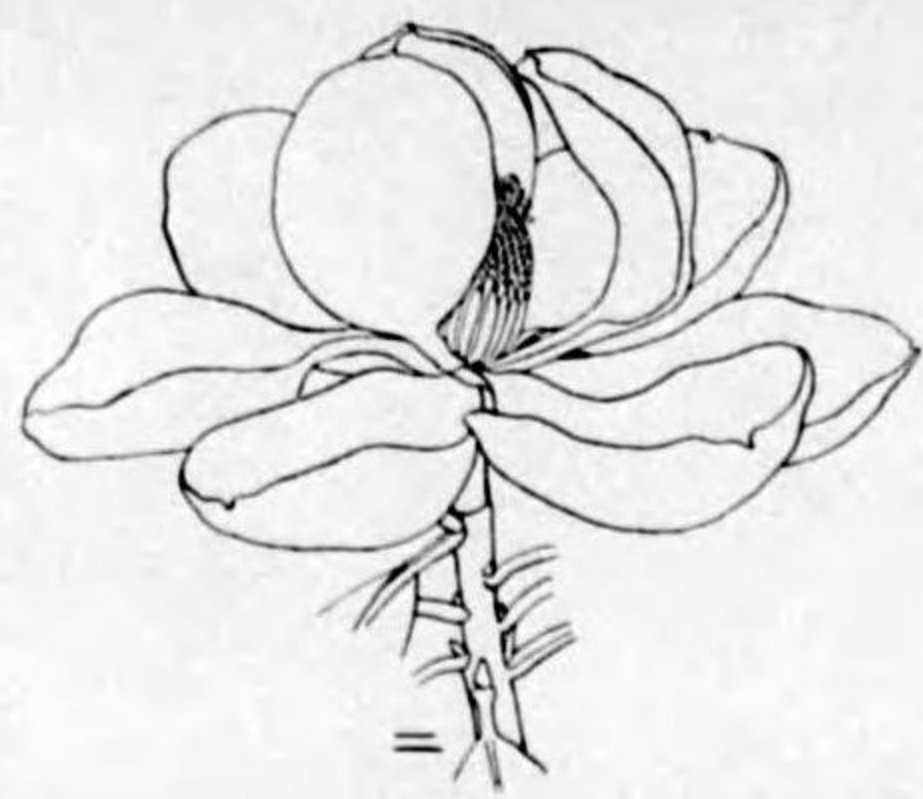
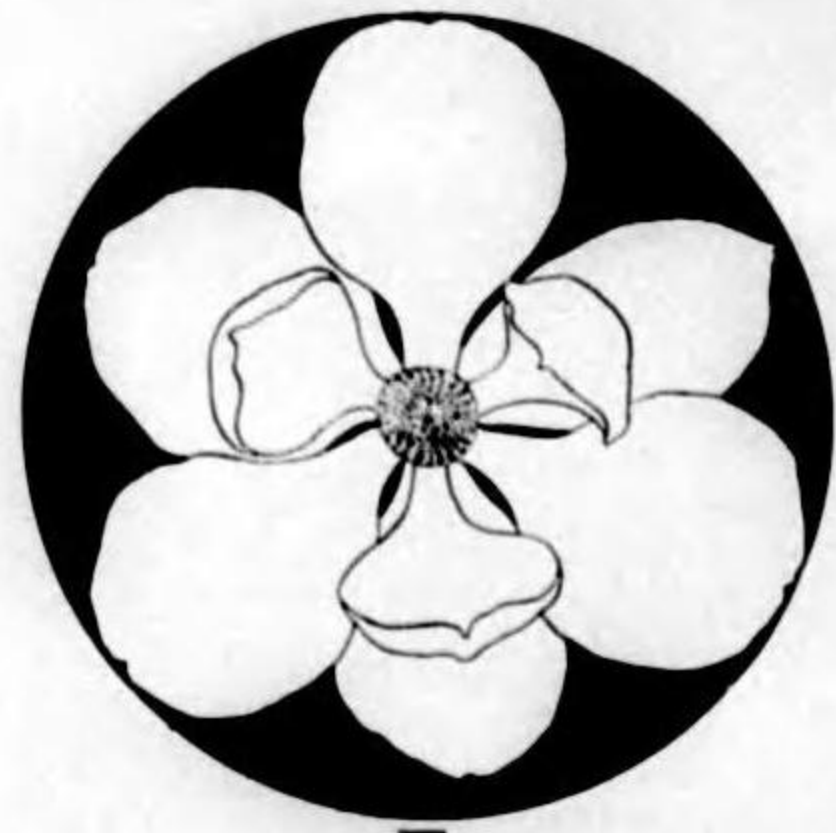
科名 木蘭科 Magnoliaceae

常緑性喬木にして、亞米利加の North carolina 及 Texas の兩州に産し、グランドモクレン(格蘭德玉蘭)と稱するもの是なり。

本種は、數多の枝葉を分ち繁茂し、外形三角形をなす、樹高六、七丈に達し、小枝と、芽には茶褐色の軟毛を密生す。葉は、互生して長橢圓形を呈し、長さ四乃至六寸餘にして、全縁厚硬なり、葉の表面は、深綠色にして、光澤を有し、裏面は黃褐色を帯ぶる軟毛を密生するも老熟すれば、漸次脱落して平滑となる五、六月の頃より葉腋より花梗を抽出し、九乃至十二瓣の白花を開く。

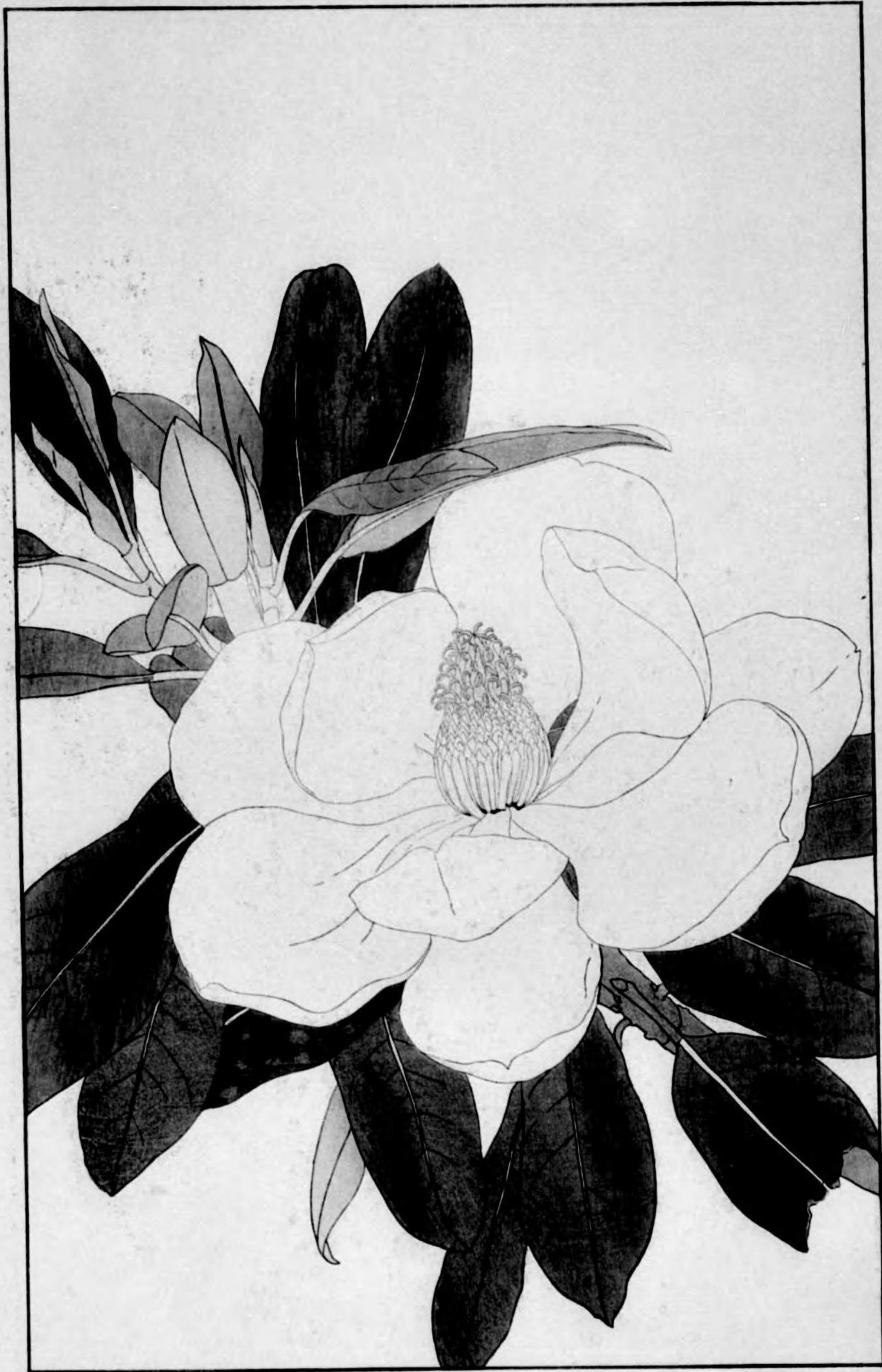
花は直立上向し、直径六、七寸にして香氣を有す、花瓣は倒卵形にして、厚肉なり、萼片は、大にして稍々花冠様をなし、雄蕊の數は多くして紫紅色を呈し、雄蕊は無數の分離せる心皮よりなり、淡綠色を呈し、褐色の軟毛を密生す、九月頃に到れば心皮は裂開し、各裂片に長橢圓形の濃赤色の外皮を有する種子二個を藏す、種子は外皮を去れば黃褐色にして、内部に白色の胚乳を存す。本種は觀賞用に供する外、木質緻密なる故に家具用として使用せらる。

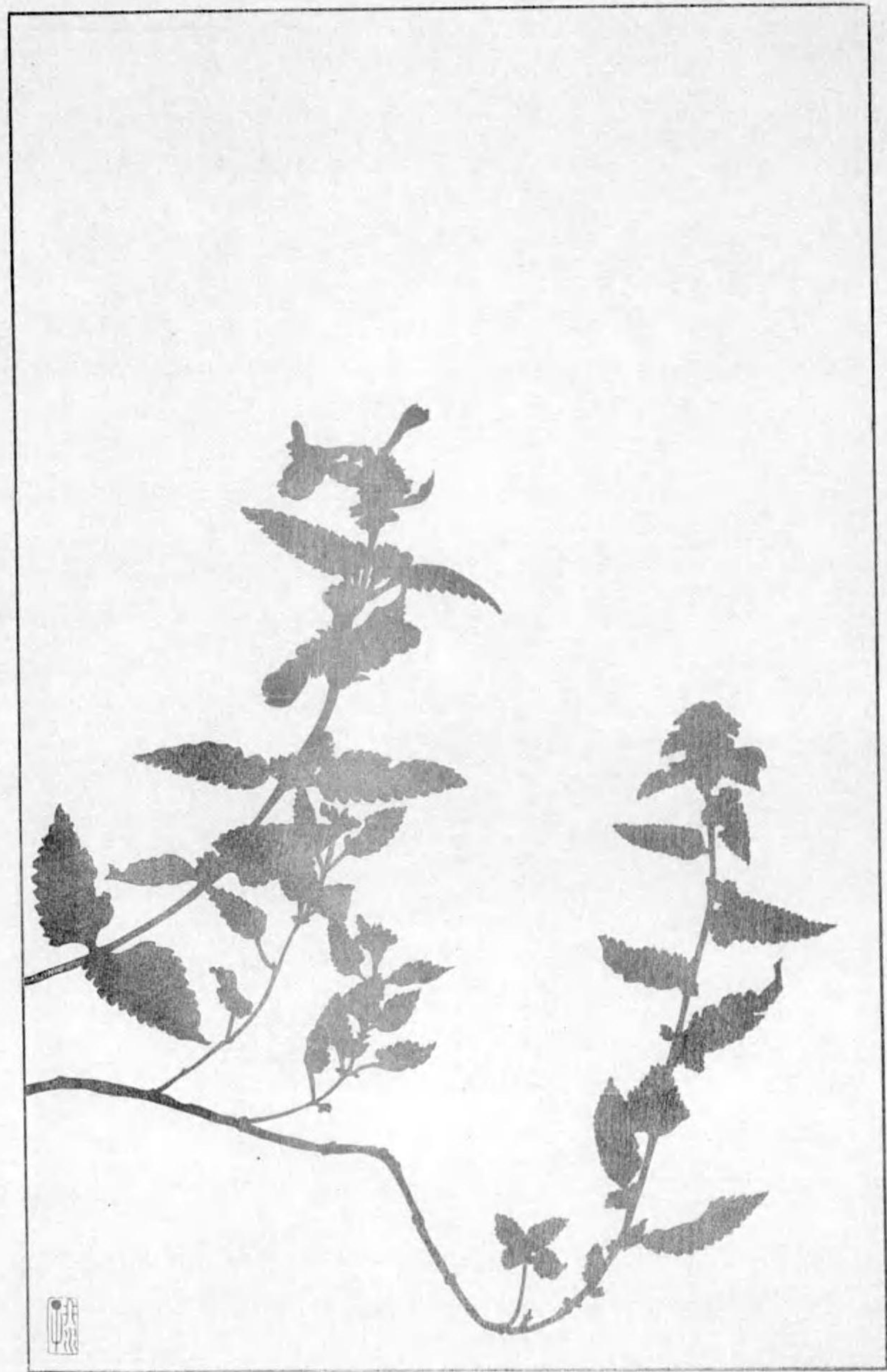
本圖 大正十年六月七日東京に於て寫生(自然大)
附圖 (一)花の正面、(二)花の側面(縮少圖)
寫眞 大正十年六月東京にて著者撮影



非水百花譜第十九輯目次

たいさんぼく 天山人
 しほがまぎく 鹽菫
 おにげし 鬼芥子
 めかるかや 刈草
 まつむしさう 松草







おにげし (鬼芥子)

學名 Papaver Oriental L.

異名 ナシ

漢名 鬼罌粟

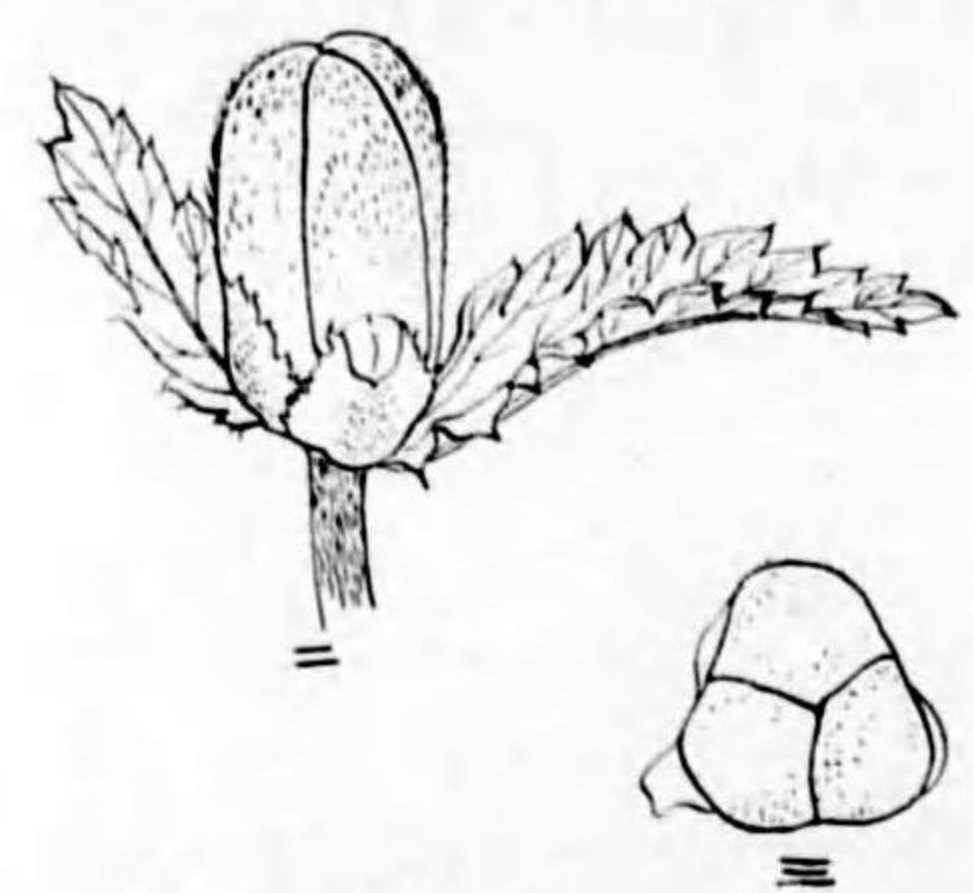
科名 罌粟科 Papaveraceae

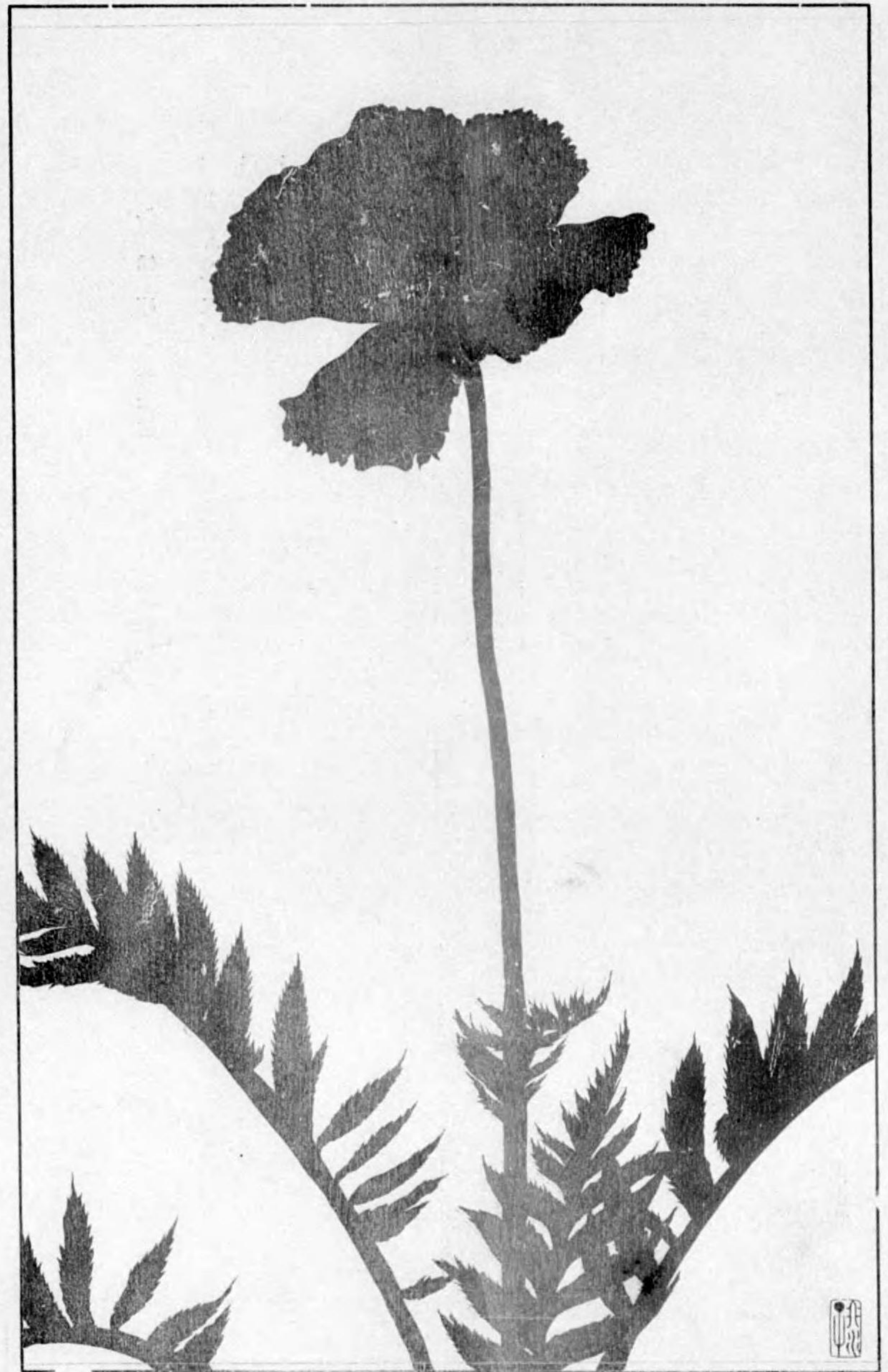
花言葉 放縱

罌粟科多年生草本にして、英名 Oriental poppy と稱し、地中海沿岸及、ベルシャ地方に自生し、吾國にては觀賞用として栽培せらる。罌粟屬中最大のものにして、高二、三尺に達し、葉は分裂して羽狀をなし、長一尺餘にして、白色の粗毛を生ず、裂片は長橢圓形を呈し、各片は鋸齒を有し、五、六月の頃に到れば枝頭に直徑五、六寸の花を著生す、花瓣は時としては六枚よりなり、普通深紅色なるも、紅色、肉色、白色、橙紅色等の變種あり、各花瓣の基部には一の紫黒色の斑點を存す、雄蕊は多數にして互生せる、二或は四層の輪列よりなり、子房は十一乃至十三個の合一せる心皮よりなる、莢は三枚にし、後果實を結ぶ、果實は蒴果にして俗に芥子坊主と稱し、倒卵形扁平なり、此種の變種を生ぜしは今より約四十年前に初めて作られたるものなり。

本圖 大正七年五月下旬東京に於て寫生 (自然大)

附圖 (一)花の正面、(二)蕾の側面(三)蕾の上面、(四)は縮少同他は自然大





めかるかや (刈萱)

學名 *Themeda Forskahi* var. *major subvrs japonica*.

異名 おがや

漢名 刈萱

科名 禾本科 (Gramineae)

山野に自生する、多年生草本にして、高三尺に達し、葉は細くして直立し、光澤を有す、葉は細長の線形をなし、先端尖りて葉の表面は深緑色を呈し、裏面は淡緑色を呈す、毛茸を生ぜず、邊緣に刺毛ありて鋭澁なり、秋季葉腋より花軸を抽出し、花軸は小にして先端に小穂花序の小花を着生す、花は長花冠を有し殼を存す、小穂花序は更に散簇して複穂状花序をなす。

根は纖維根にして、黄色を呈し強韌なるにより東葎となし刷毛を作る。

本圖 大正九年十月十三日加賀片山津に於て寫生 (自然大)

附圖 (一)(二)花の側面圖、(一)は自然大、(二)は擴大圖

寫真 大正九年九月東京にて著者撮影







まつむしさう (松虫草)

學名 *Zablosa japonica* Miq.
 異名 りんばうさく(輪鋒菊)、鐵仙花
 漢名 山蘿蔔
 科名 山蘿蔔科 (Dipsacaceae)
 花言葉 何もかも失した

北海道、本州、四國等の山野に自生する。二年生草本にして、高二尺に達し、葉は多数にして對生し、羽狀複葉をなし、葉の基部にゆるものは、披針形全縁なるも、上部のものは倒卵形にして、粗き鋸齒を有し、葉面に細毛を生ず。夏秋の頃花軸の頂端に多数の花を散放し、頭狀花序をなす。花序の外側は菊花に似たるを以て輪鋒菊の名あり、花序の外側は、大にして淡紫色をなし唇形をなす、上唇は小にして二裂し、下唇は大にして三裂して、中央の裂片は長く、三齒をなす。中央の花は小にして、筒状を呈し、四裂を存す、色は淡紫色なるも殆ど白色なり、總苞は披針形にして、數十個よりなり、覆瓦狀に密生す、雄蕊は四個ありて、筒内向上葉褐色を呈し、筒中白粉を散す。子房は筒の中におりて、一花柱を挺出す。

果實は半球形にして、蓋生し頸頭に五尖ありて其上に紫色の刺毛を生ず。嫩葉は採りて食用に供せらる。

本圖 大正十年九月八日下野那須温泉地に於て寫生(自然大)

附圖 (一)頭狀花の正面、(二)頭狀花の側面、(三)同上正面、(四)同上正面、(五)外輪花の側面、(六)中央部の花の側面、(七)印葉、(五)(六)は擴大圖
 他は自然大

寫眞 大正十年九月下野那須温泉地にて著者撮影





松浦水鏡
卷之五
牛馬
仁壽
山口
春
秋
終

終